

福祉保健委員会	
平成28年12月15日	
担当課	こども発達・家庭支援センター
電話	20-0122 (内線6131)

「平成28年度 鳥取市子どもの成育環境調査報告書（速報版）」について

## 1. 子どもの成育環境調査

- (1) 目的：子育て世帯の経済状況や生活の実態が、子どもが育つための諸条件、仲間や大人との関係、活動への参加の機会や経験、将来の具体的な見通し、生活への満足度などどのような因果関係があるのかを明らかにし、子どもの貧困対策に係る支援施策を検討する基礎資料を得る。
- (2) 調査分析委託機関：鳥取大学地域学部附属子どもの発達・学習研究センター
- (3) 調査期間：平成28年8月12日～8月30日
- (4) 調査方法：郵送自記式
- (5) 対象家庭（無作為抽出）と回収状況

対象者	配布家庭	回収数	回収率
5歳児保護者	899	358	39.8%
小学3年生と保護者	900	293	32.6%
小学6年生と保護者	900	276	30.7%
中学3年生と保護者	899	246	27.4%
総計	3,598	1,173	32.6%

### (6) 調査項目

#### 【小学3年生】：27項目

- 1) 生活の様子（楽しいか、持っている物・経験したい事、公園やまち中で遊ぶか）
- 2) 学校のこと（楽しいか、勉強の理解度、スポーツクラブ、先生は理解してくれるか）
- 3) 友達のこと（友達の家や自分の家で遊ぶか、学年の違う友達と遊ぶか）
- 4) 放課後や休日の過ごし方
- 5) 自分のこと（自己肯定感、相談者の有無、夢中になれる事があるか）

#### 【小学6年生と中学3年生】：32項目

小学3年生 + 学習塾の有無と行きたいか、学校の部活動・習い事楽しいか、進学希望

#### 【5歳児保護者】：39項目

- 1) 養育について（進学期待、習い事の費用、習い事やスポーツ活動の数、園行事の会話、親行事参加状況、相談しやすい人・機関、公的・社会的サービス利用状況）
- 2) 生活状況（経済状態、必要な物買えなくて困る、社会保障制度の利用、支援や援助の有無）
- 3) 家族のこと（同居家族、親の年齢・最終学歴・勤務形態・労働時間、家族全体の総合的な収入、貯金や学資保険加入の有無、住居の種類）

#### 【小学3年生・6年生、中学3年生保護者】：42項目

5歳児保護者 + 学習の理解度、塾や習い事の時間数、就学援助制度の利用の有無

- (7) 分析結果・別紙 平成28年度鳥取市子どもの成育環境調査報告書（速報版）を参照

# 平成 28 年度 鳥取市子どもの成育環境調査報告書（速報版）

子どもの成育環境として、経済的状況とともに、文化的な状況や社会関係が重要な影響を持っていることが指摘されている。本調査では、それらの状況を明らかにすると共に、それぞれの経済状態が子どもの成育環境や学習状況にどの程度影響しているのかを示し、どのような取り組みが求められているのかを明らかにする事を目的としている。

【調査概要】 ■ 調査時期：2016 年 8 月

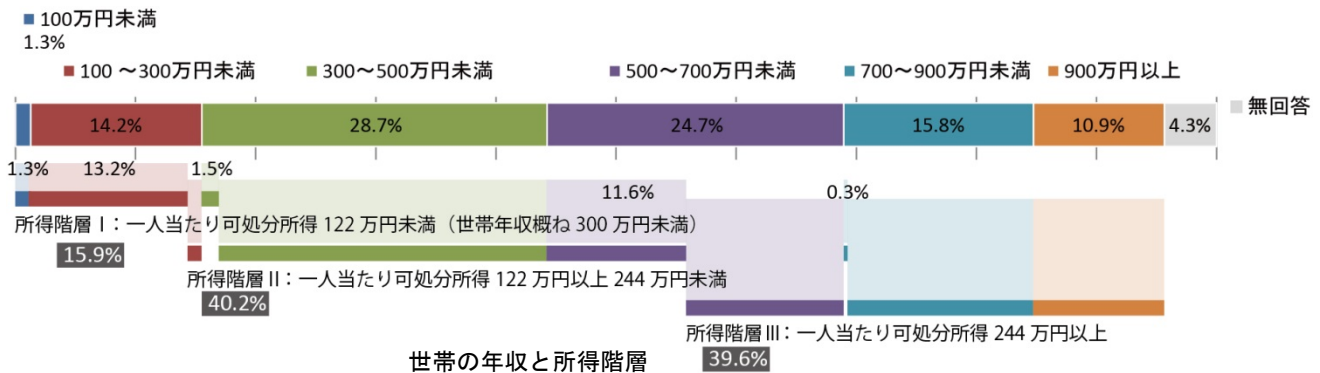
■ 調査方法：郵送自記式により以下の対象者に実施

	5 歳児の保護者	小学校3年生と保護者	小学校6年生と保護者	中学校3年生と保護者	総計
対象家庭数	899	900	900	899	3598
回収数(回収率)	358(39.8%)	293(32.6%)	276(30.7%)	246(27.4%)	1173(32.6%)

【対象者概要】 三世帯同居は全体で 28.7%、ひとり親家庭の割合は 10.3%、平均家族員数 4.7 人、平均きょうだい数（子ども）2.3 人となっている。また持ち家率は 74.8%である。

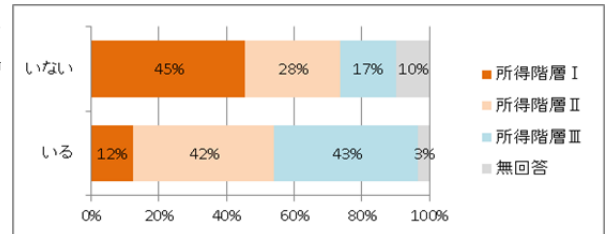
## 【調査結果】

### 1. 収入

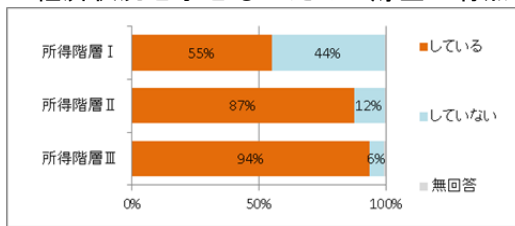


世帯の年収は、300～500 万円未満が最も多く（28.7%）、次に 500～700 万円未満（24.7%）、次に 700～900 万円未満（15.8%）と多くなっている。総合的な世帯年収から一人当たりの可処分所得を推計し、122 万円未満（世帯年収概ね 300 万円未満の層とほぼ重なる）を「所得階層Ⅰ」、122 万円以上 244 万円未満を「所得階層Ⅱ」、244 万円以上を「所得階層Ⅲ」とした。

本調査で、配偶者がいない家庭（ひとり親）は 122 家庭（10.3%）であった。配偶者がいない家庭で所得階層Ⅰの割合は高い（45%）。なお、配偶者がいない家庭の 9 割は母子家庭である。

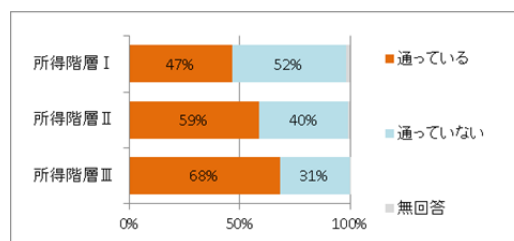
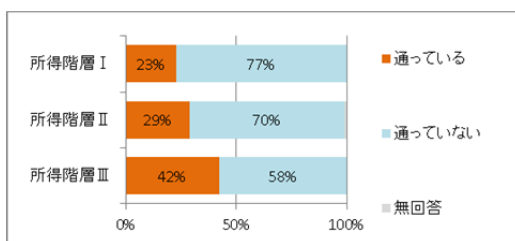


### 2. 経済状況と子どものための貯金の有無



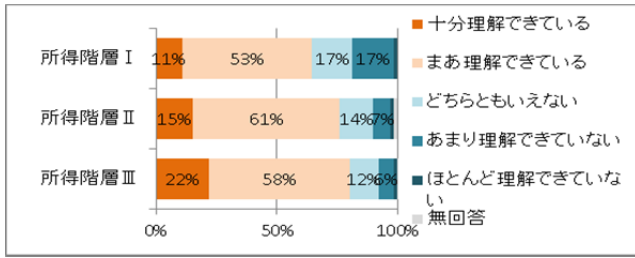
所得階層Ⅰは、子どものための貯金をしたり、学資保険に加入している割合が「55%」と他の階層よりも極端に低くなっている。

### 3. 経済状況と通塾・習い事

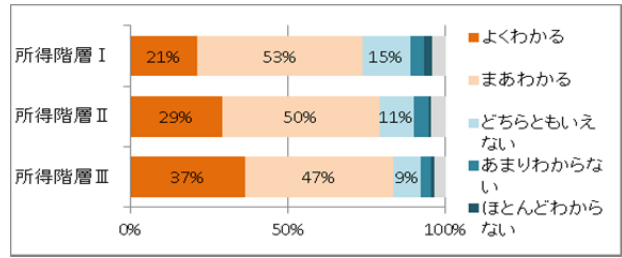


経済状況が厳しいほど、塾や習い事に通っていない割合が高い。また、子ども 1 人にかかる教育費の平均月額額は、所得階層Ⅰは 6,095 円、所得階層Ⅱは 8,090 円、所得階層Ⅲは 12,549 円となっている。

#### 4. 経済状況と学力認識



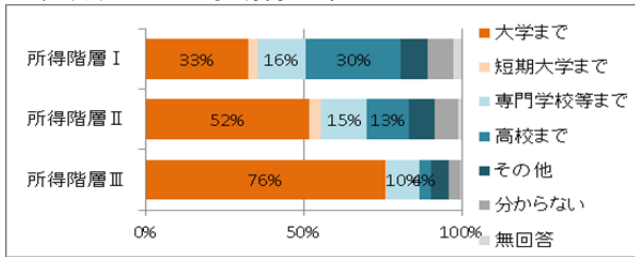
保護者による子どもの学習理解 (5歳児を除く)



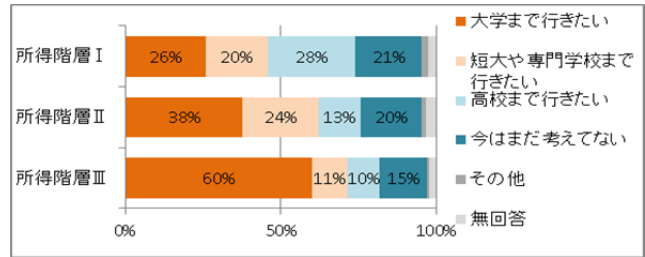
子ども自身の学習理解 (5歳児を除く)

所得階層Ⅰの子どもの学習理解は他の層に比べ、保護者による評価、子ども自身の評価ともに肯定的な評価が少ない。

#### 5. 経済状況と進学期待・希望



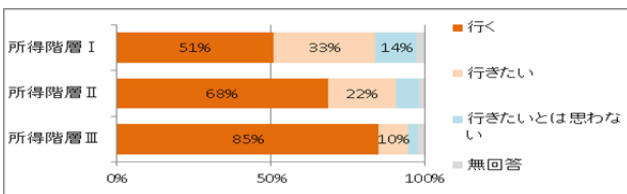
保護者による子どもの進学期待



子ども自身の進学希望

所得階層Ⅰの進学期待は他の層に比べて、保護者の期待、子ども自身の希望ともに、「大学まで」という回答が少ない。

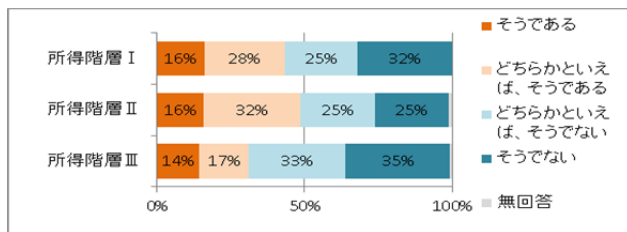
#### 6. 経済状況と旅行



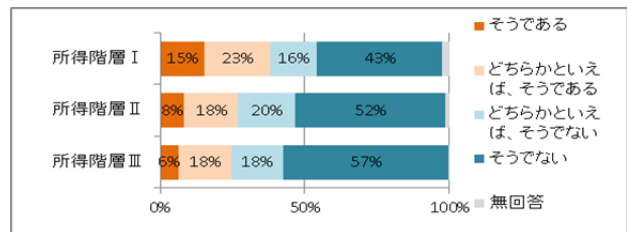
子ども自身が持っているもの、欲しいものに関しては、勉強机、ゲーム機、スマートフォンやキッズ携帯などの所有及びおこづかいやお祝いの有無に関しては所得階層との関連はなかったが、旅行については所得階層Ⅰが「行きたい」とする割合が多かった。

経済状況と旅行に「行く」「行きたい」「行きたいとは思わない」

#### 7. 放課後に一人で過ごす、良い行き場所がない



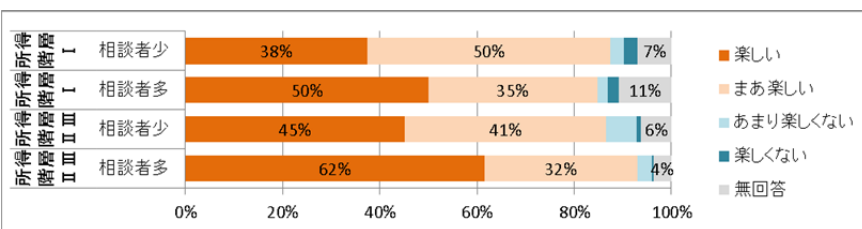
経済状況と親子が集う居場所がない (5歳児保護者)



経済状況と良い行き場所がない (児童生徒保護者)

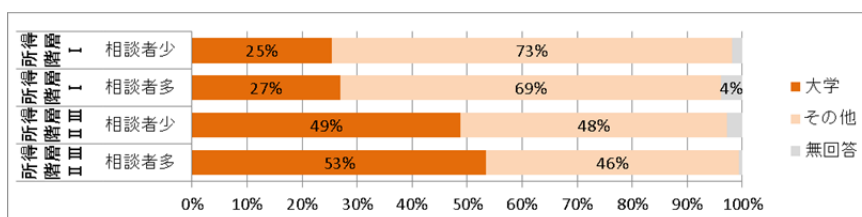
放課後に関しても、所得階層Ⅰでは一人で過ごすが良い行き場所はないと答える割合が高い。

#### 8. 子どもにとっての相談者数の多さ (社会関係資本) は、総合的な収入の多少による影響を緩和するのか?



生活の楽しさに対する所得階層と相談者数の関連

子どもが悩みを相談する相談者(家族、友達、先生など)の平均数(2.3人)よりも少ない層と多い層に分けて、所得階層ごとに、生活の楽しさと進学希望との関連を検討した。



進学希望に対する所得階層と相談者数の関連

生活の楽しさは、相談者数が多いと肯定的な回答が増えたが、進学希望に関しては相談者数との関連は見られなかった。相談者数が増加すれば、生活の楽しさは改善される可能性はあるが、進学希望にまでは影響を及ぼしていないことが示唆された。